

# 農業者年金加入推進の取り組み

(長崎市・西海市農業委員会)

担い手への農  
地利用の集  
積・集約化

遊休農地の  
発生防止・  
解消

新規参入の  
促進

その他(農業  
委員会の体  
制強化等)

【農業委員会の体制】(平成29年7月20日移行)

○新体制:農業委員19人、農地利用最適化推進委員:30人、事務局職員:5人

○旧体制:農業委員31人、事務局職員:4人

## 1 地区の特徴・状況、課題

西海市は西彼杵半島に位置し、東側は大村湾、西側は五島灘に面している。水稲の他、果樹栽培(ミカン)、施設野菜(ミニトマト、アスパラガス)等が盛ん。特に温州ミカンは糖度が高く、甘いと評判で、「岩崎」「原口」は長崎県を代表する品種となっている。農地面積は、農地利用状況調査で5,330ha、うち荒廃農地A分類359ha、B分類2,471haと農地の半分以上が遊休農地となっている。原因として、農家の高齢化、担い手不足等があげられ、その対策が急がれるところである。



## 2 課題解決に向けた活動(加入推進の取組と工夫)

農家の高齢化、後継者不足に対する取組として、老後生活の安定と福祉の向上に大きく貢献する「農業者年金」の魅力を若い農業者にアピールし、加入推進を図った。実際に加推進にあたる農業委員と農地利用最適化推進委員の方々向けに、加入推進対策会議を市内3地区に分けて開催し、研修を実施した。研修の内容としては、長崎県農業会議の担当者による、制度の概要や特徴についての講演ほか、農業委員会事務局職員を中心としたメンバーによる「寸劇」により、農業者年金の魅力をより分かりやすく、また親しみやすく伝えるよう努めた。

## 3 活動(取組と工夫)の結果

加入推進に従事する農業委員や推進委員の方々の理解やモチベーションがより一層向上し、訪問や電話、ポスティング等の勧誘活動を実施するうえで大きな自信となった。コロナ禍で、思うように勧誘活動が出来ない状況において、結果として、加入目標人数を達成することができた。特に研修に取り入れた寸劇は、「通常加入向け」、「政策支援加入向け」など数パターンが用意され好評を博し、全国農業新聞でも取り上げられた。